

大橋架換工事概要

東京府土木部
技術課長

藤田周造

一 沿革

東京府管内に於ける橋梁の發達を見るに往古は史實明かならざるを以て知るに由なきも最も古きを六郷橋こし大橋(千住)之に亞ぐ。幕政三百年、如何に政治交通の要路たりしかを窺ふに足る。本橋は文祿三年甲午九月(距今三百三十四年後陽成天皇の御宇)伊奈備前守によりて架設せられたるを以て初めさす、爾來流失或は燒失により架換せられたるここ數度に及び今日に至れり、最近は木造桁橋にして長さ六十間幅員四間十三の大小徑間より成りしが交通の狀勢は本橋の架換を必要とし大正十一年度通常府會に提案し之を十二年度乃至十五年度の三ヶ年繼續事業として可決せられたるものなり。

然るに大正十二年九月の大震災に遭遇し復興計畫と緊密の關係を有するの故を以て復興事業費中より補助金を交付せらるゝこととなり、且東京市電氣局の軌道延長の計畫を容れ橋幅員の増加と工事進捗の關係上繼續年期を昭和二年度迄延長し以て今日に至れり。

二 計畫の概要

本橋は北豊島郡南千住町南足立郡千住町入會荒川に架するものにして架橋位置は略舊橋と一致す。

橋梁有效幅員十二間、橋長三百五尺とす。取付道路有效幅員十二間、取付長南千住側に於て三十九間四分千住町側に於て七十七間四分とす。

結構型式は擊拱橋とし構材は八幡製鐵所製作に係る半軟鋼を使用す。

床部は鐵筋混凝土造とし車道幅九間は木塊鋪裝人道三間をアスファルト、ブロック鋪裝とす。

橋臺は基礎に松丸太末口八寸長六十尺を打建て主體は鐵筋混凝土を以てす。

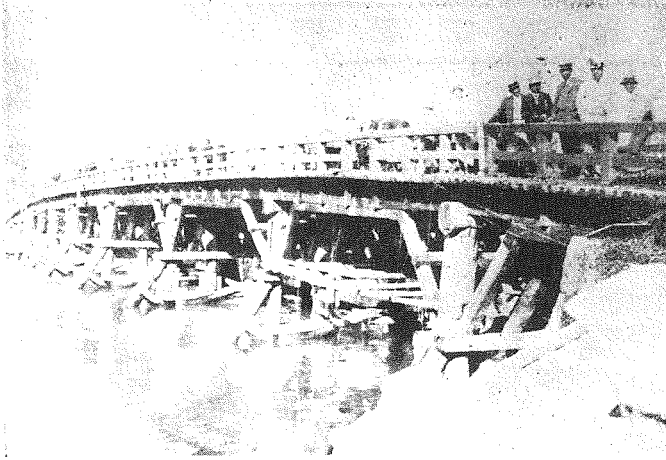
荷重其他設計規定は街路構造令により永久的構造とせり。

三 工事の施行

本橋準備工事として假橋架設工事に着手せるは大正十二年七月にして同十三年五月之を完成す。

本工事に着手せるは大正十四年五月にして爾來月を闊す事三十一漸く工を竣れり。

橋	梁	總	工	費	701,686,775	面	坪	當	工	費	1,036,000	
上 部 構 造	橋	橋	總	工	費	503,786,493	面	坪	當	工	費	744,000
			體	費	427,197,908	面	坪	當	工	費	640,000	
			床	費	66,108,335	面	坪	當	工	費	99,000	
			欄	干	費	10,480,250	間	口	當	工	費	103,000
下 部 構 造	橋	臺	總	工	費	197,900,282	面	坪	當	工	費	324,000
			費	總	工	費	197,900,282					
				準	備	費	67,364,989					
				基	礎	費	130,535,293					
上	部	費										
其		ノ		他	工	事	費	67,040,001				
單 價 調												
鋼	材	噸	當	材	料	費	116.838					
鋼	材	噸	當	工	作	及	假	組	立	費	65.000	
現	場	迄	鋼	材	噸	當	運	搬	費	2.500		
橋	體	組	立	足	場	噸	當	費	36.308			
現	場	組	立	架	渡	噸	當	費	30.500			
鋼	材	ペン	キ	塗	抹	噸	當	費	(組立前及仕上共) 9.300			

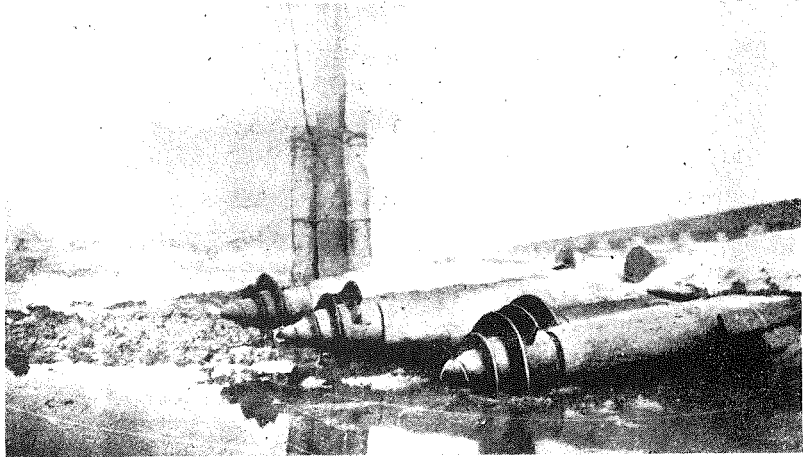


(1) 千住、大橋舊橋の景

(1) The old Senju-Ohashi Bridge.

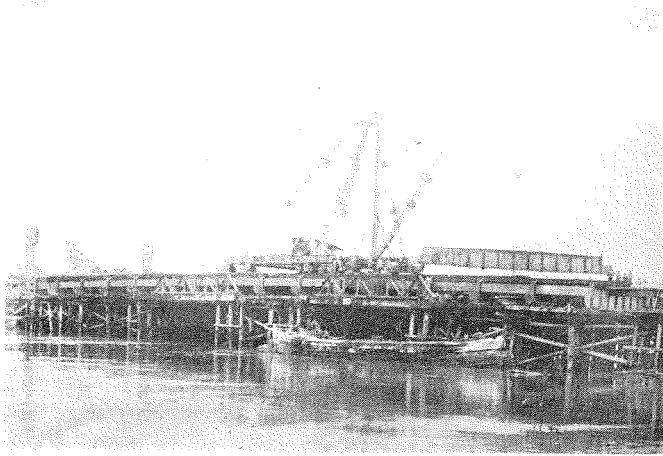
(2) 千住、大橋舊橋
橋脚杭鐵杓

(2) Steel piers used
or the old
bridge.



(3) 千住、大橋々臺基礎杭打込

(3) New foundation for the
new bridge.

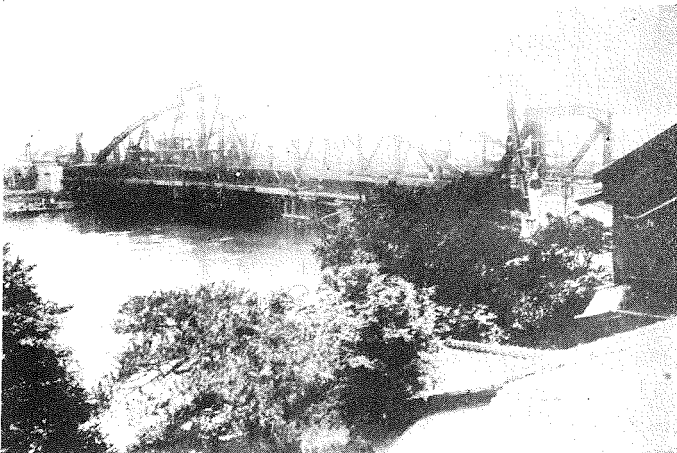
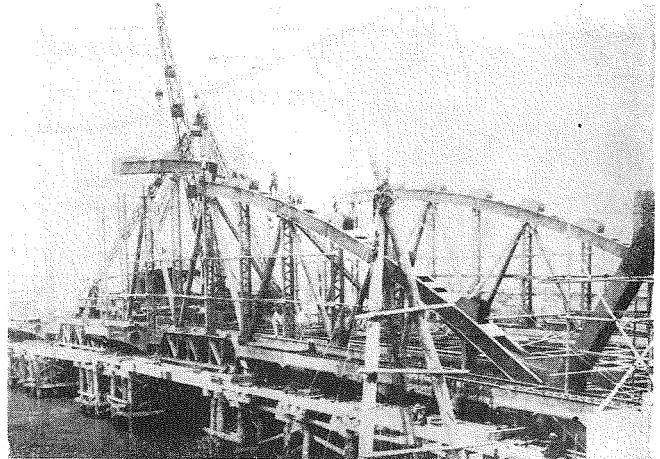


(4) 千住、大橋鋼桁架設工事中

(4) Girdering.

(5) 千住、大橋上弦材架設工事中

(5) Assembling work of arches.



(6) 千住、大橋上弦材架設工事中

(6) Same from another angle.